

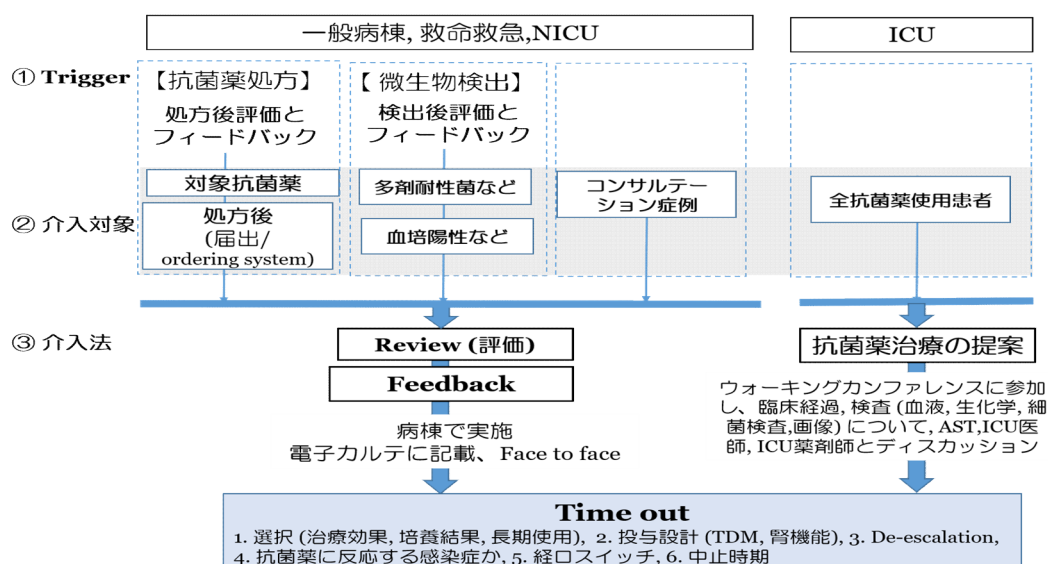
Ⅱ. 抗菌薬適正使用支援チーム（AST）



抗菌薬適正使用支援（Antimicrobial stewardship: AS）は、病院全体の検出菌の抗菌薬感受性の改善、多剤耐性菌感染の減少、平均入院期間の短縮、個々の患者さんの感染症治療の成績の向上、抗菌薬による副作用の予防を目的としている。

具体的な活動内容として、①コンサルテーションサービス、②集中治療(intensive care unit, ICU)での抗菌薬適正使用支援、③抗菌薬処方後の適正使用評価とフィードバックと長期投与時の介入、④微生物検出がtriggerとなる介入：a. 血液などの無菌部位からの菌検出時、b. 多剤耐性菌検出時、c. *C. difficile*迅速検査陽性時、⑤アンチバイオグラムの作成と院内への周知、⑥抗菌薬使用状況調査、⑦抗菌薬適正使用に関する教育、⑧抗菌薬に関する院内マニュアル作成と改定、⑨院内で使用可能な抗菌薬種類の定期的な見直し、⑩抗菌薬適正使用支援チームが存在しない他の医療機関からの相談などを行っている（Ⅱ－１，Ⅱ－２）。

Ⅱ－１ 抗菌薬適正使用支援の対象患者と介入方法



Ⅱ－２ ASプログラムの対応患者数と延べラウンド回数 (人)

区 分		2025年度	2025年度 構成比率(%)
コンサルト対応		581	40.9
ICU (抗菌薬使用全症例)		169	11.9
抗菌薬処方 介入	処方後および培養結果による介入 (TAZ/PIPC, カルバペネム)	135	9.5
	特定抗菌薬の長期使用例	334	23.5
微生物検査 による介入	無菌部位 (血液, 髄液等) からの検出に対する 速やかな抗菌薬適正使用	146	10.3
	特定耐性菌に対する抗菌薬適正使用	19	1.3
	<i>C. difficile</i> 腸炎の治療選択	36	2.5
合計		1,420	100.0
延べラウンド回数		1,420	

